



「みんな大事」



<1月9日(火)3学期始業式で>

1月1日の能登半島大地震により、被災した多くの方が今もなお不安な日々を過ごしていること、そして、学校に通うこともできない子供たちがたくさんいること等を踏まえて、自分たちの日常は決して当たり前のことではないのだという思いを抱きながら、体育館に集まった子供たち一人一人の顔を見渡しました。こうして子供たちと無事に会うことができる有難さを改めて感じました。

<「いっせえのせ」で取り組もう！>～「あったかいよつば小学校」の実現のために～

3学期の始業式に、「この世界に傷付いていい子など、一人もいない」という話をしました。だからこそ私たちは「相手が嫌だと思ったりして、傷付けてはいけない」と、「みんな大事」だからです。

「全員が『いっせえのせ』で取り組まないと誰もが安心できる学校は実現しない。だから、みんなで取り組もう！」と話す、子供たちは身を乗り出して、真剣に話を聴いていました。

<SOSを出そう！>

人は嫌なことがあっていらしたり、むかむかしたりすると、つい言動が乱暴になったり、友達の悪口を言ったり、嫌なちょっかいを出したりしてしまうこともあります。すると、必ず誰かが傷付くことになります。心の傷は、なかなか消えるものではありません。

いらいらしてよくないことをしてしまいそうになった子も、嫌なことがあって傷付いた子も「私を助けて」とSOSを出してほしいと伝えました。どうしてほしいのかが分からなくても、まずは自分が抱えている気持ちを話すだけでもいいのです。話す相手は、友達でも、家族でも、先生でも誰でもいい。SOSを出す力は、これから先、子供たちが生きていく上でとても大事な力だと思います。そして、もちろん困っている人のSOSに気付く力も。

<素直は宝 子供たちは偉大>

子供たちは本当に素直で偉大です。その素直さに大人はいつもはっとさせられます。

早速、自分からSOSを出して問題解決しようとしている子や友達のSOSに気付いて話を聞いてあげようとしている子がいます。担任から子供たちの『いっせえのせ』の取組の一端を聞いたときに、あたたかい気持ちになると同時に頼もしく感じます。子供たちは本当にすごい。「大人も前向きに生きる背中を見せられるように頑張らなくては」と気持ちを新たにしたところです。ここからが大事。『いっせえのせ』の取組のはじめの一步を大切に見守り育てていきたいと思えます。

うまくいかないこともあり、ご心配をおかけすることもあるかと思いますが、職員一丸となって努めてまいりますので、ぜひ、あたたかい目線で応援していただければ幸いです。そして、お気付きのことがありましたら、遠慮なくご連絡ください。

末筆ではございますが、皆様の安全と被災地の一日も早い復興、そして被災された皆様の生活が一日も早く平穏に復することを心よりお祈り申し上げます。